



【写真上】恒例のイベントはいずれも地域の人から楽しみにされています（写真は「朝市」風景）【写真下】交通量の多い栃木街道も、商店街のエリア内

「まあ、ほとんど飲み会になっちゃいますけど、白井会長が楽しそうに教えてくれました。でも、その中からいろいろな活動や工夫が生まれてくるんですよ。最近、青年部がいろんなイベントで先頭に立って動いてくれるようになりましたが、それも飲みニケーションのおかげだと思っています」

毎年7月最終日曜日に開催している「朝市」や、11月に宮の市と連動して行っている「秋の味覚祭り」など、地域の方々に向けた恒例イベントも、毎回好評です。380

宇都宮商店街めぐり 第11回

中央公園南商工振興会

「地域との交流を主に、 力をあわせて 活動しています」

中央公園から南に広がる中央公園南商工振興会は、約30年の歴史を持つ商店街です。30店舗が地域に溶け込んで活動しています。

「私も、もともと会員同士や地域の方々との交流を、主な目的として設立されました。ですから、販促活動はもとより、親睦や地域貢献にも力を入れています」

そう笑顔で話すのは、白井昭夫会長（有衣料のうすい社長）。1982年の設立当初から、ほぼ一貫して会長を務めておられます。

宇都宮西部に位置し、中央公園からインター通りにかけてのエリアが、同商店街です。東は栃木街道、西は鶴田川にはさまれ、住宅や小学校などと共存しています。

「中央公園から鶴田駅にかけて遊歩道がありますが、その名称の『なかよし通り』は、公募をしてつけたんです。後で聞いたら、宇都宮市では道路の名称を民間がつけた走りだったそうですよ」

会の発足当時は40店舗を超える会員数でしたが、現在は30店舗。少々少なくなりましたが、結束の固さは変わっていません。春と秋には会員とその家族で、「ファミリー懇親会」としてパーベキュー大会や天ぷらパーティーなどを開催しているそうです。その他に新年会や総会などのイベントを行っています。

また、青年部や販促部など7部会が活発に活動していることも、まとまりを生む理由の一つです。

班もある自治会も、ほとんどが回覧板でイベントをPRしてくれるなど、自治会と商店街とが上手に連携しているようです。

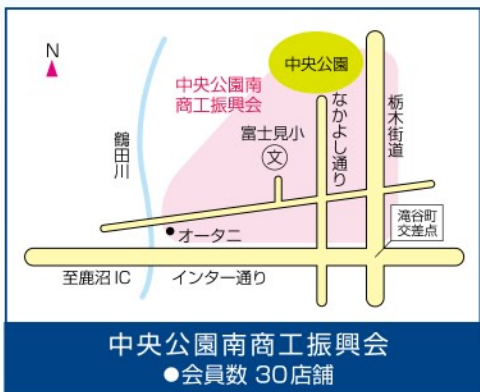
設立2年目に作った街路灯は、今も地域の夜を明るく照らしています。

「当会は、商店と非商店が半々くらい。業種が豊富で、会員だけで家が一軒建てられるほどです。だから、地域交流が中心でやれるんです」と話す白井会長。今の課題をうかがうと「やはり、新規会員勧誘ですね」と、少し厳しい表情でおっしゃいました。固い結束で、厳しい時代を乗り切ってください！



中央公園南商工振興会
白井 昭夫 会長

※このコーナーは隔月で掲載します。



中央公園南商工振興会
●会員数 30店舗

